

申  
11  
号

### ダイヤ改正における終電時刻繰り上げ等に 関する申し入れ団体交渉を行う！

#### 1. 首都圏における終電時刻の繰り上げ等に伴い想定されるお客さま流動や当社の経営効果について明らかにすること。

- ・保守作業時間の確保などによってどのくらい経費に寄与するのか、どの程度のコストダウンになるのかは一概には言えないが、働き方改革や機械化、効率化が見込めると考えている。
- ・2回目の緊急事態宣言で利用状況は大幅に減ってきている。20%以下が続いている。
- ・緊急事態宣言が解除されてからきちんと見定めた上で列車設定をしていく。

#### 2. 一部線区における終電前の増発や週末における臨時列車の運転に関する運用等について明らかにし、各系統における要員関係や作業ダイヤ等の見直しの考え方について明確にすること。

- ・要員配置は年間を通じて決めてある。波動という形で必要な要員は確保していく。
- ・作業ダイヤを頻繁に変更する考えはない。列車に合った作業ダイヤを定めた上で業務してもらうことが基本。
- ・現在の利用状況を見ると臨時列車を走らせるまでではない。お客さまが不便にならないように考えていく。

#### 3. 郊外から都心に向けた列車及び地方線区における終電時刻の繰り上げ等の考え方について明らかにすること。

- ・会社が厳しいからと言って列車削減をするものではない。お客さまがいらないからすぐ切るのではなく、終電状況を検討した上で列車設定を考えていく。
- ・各支社の状況は一概には言えないが、仙台エリアは大きく輸送体系を変えた設定になっている。

#### 4. 鉄道工事における働き方改革の実現や鉄道設備の設置・保守のスピードアップによるサービス向上について明らかにすること。また、想定している効果について示すこと。

- ・ホームドア整備により転落などの危険性が削減され、工期が短縮できることによりリスクも減る。設備がシンプルになるので事故や故障も減り、安全・安定に寄与する。また、施策もスピードアップできる。
- ・基本的に作業時間は180分は確保したい。作業前後で準備時間30分ずつを考えると概ね240分は取りたい。
- ・これまでの取り組みも総じてだが、工期短縮によりコストが下げられる。パートナー会社、当社も含めて生産性が上がり、機械化ができれば更に効率もよくなるのでコスト構造の見直しも期待できる。

#### 5. 終電時刻繰り上げ等に伴う保守作業時間拡大を根拠とした工期短縮及び工事発注件数の拡大は行わないこと。

- ・効率的に作業ができる結果、発注件数が拡大する可能性はある。無理強いではなく適性な工期設定をしていく。
- ・パートナー会社と一緒に考えていきたい。しわ寄せがいくようなことではない。

#### 6. 鉄道工事における働き方改革の実現を図る観点から、本体のみならずパートナー会社を含めた夜間作業回数の削減及び時間外労働の縮減に努めること。

- ・夜間作業を減らしていく方向性はあるが、安全・安定に関わるので一概に減らしていくとは考えていない。設備強化やスマートメンテナンスで夜間作業を必要としない、人から機械へ置き換えていくことを考えていく。

#### 7. 一部線区における終電前の増発や週末における臨時列車の運転に伴うダイヤの見直しに関するお客さま周知の考え方について明らかにすること。

- ・HPやトレインチャンネル、東日本アプリ、駅頭掲示など様々な情報ツールの特性に応じて一番お客さまに伝わりやすい方法でやっていく。社員に対しても問い合わせに答えられる、案内できるような体制をつくっていきたい。

#### 8. 「2021年春のダイヤ改正」のプレス発表後は速やかに社員周知を行い、詳細等について説明を行うこと。

- ・プレスした直後にお客さま用のQ&Aをスマカタにアップした。それを基本に順次、一般社員に周知をした。また、管理者等へも周知をしながらお客さま対応をしていくための周知を行った。
- ・全ての社員が納得するような形で出しているとは思っていない。タブレットに配信したからいいとも思っていない。引き続き勉強しながら行っていく。また、職場で聞かれた時に説明できる体制も整えていく。

#### 9. 本案の団体交渉については、12月中に予定している「2021年春のダイヤ改正」のプレス発表前に行うこと。

- ・準備が整えばその時点で日程等を示してしっかり調整していく。これまでと考え方が変わった訳ではない。

**職場と仕事、安全と健康を守るためしっかり検証しよう！**